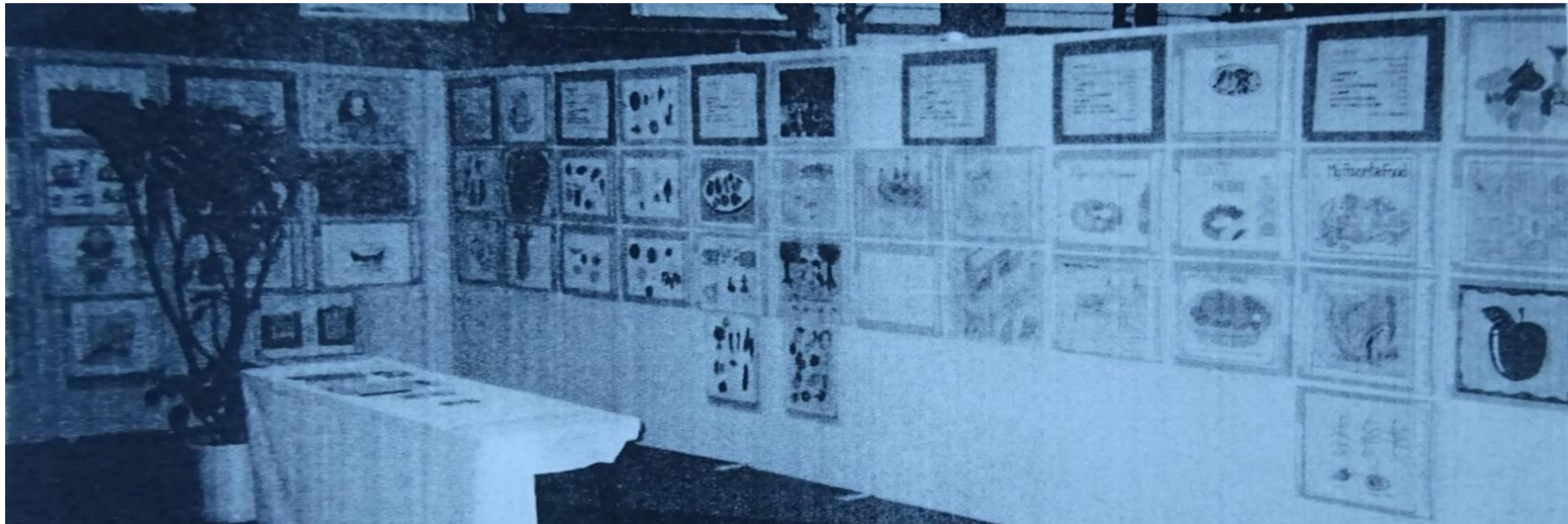


『飢餓・病気・ストリートチルドレン』の為の啓発キャンペーン

“世界の飢えた人々に食料と愛を”

親や保護者がいないため路上で生活し、病気や暴力に脅かされているストリートチルドレンの救済を呼びかけるパネル展が平成11年1月14日～18日の5日間、厳寒の中、ロータリアン交代で朝7時から夜11時まで、一条通り買物公園の丸井今井旭川店アッシュ・アトリウムで開催した。

この催しは 貧しさのため世界各国で毎日約3万5000人の人たちが命を落とし、教育を受けられず、読み書きが出来ないといった現状を写真やビデオ上映などを通して紹介するもの。国や人種の枠を超え、すべての人たちが一日も早く平和に暮らせることを願い日本国際飢餓対策機構の協賛を受け、旭川モーニングRC（会長 竹村陽子）が主催したものである。



※私たちに出来ること

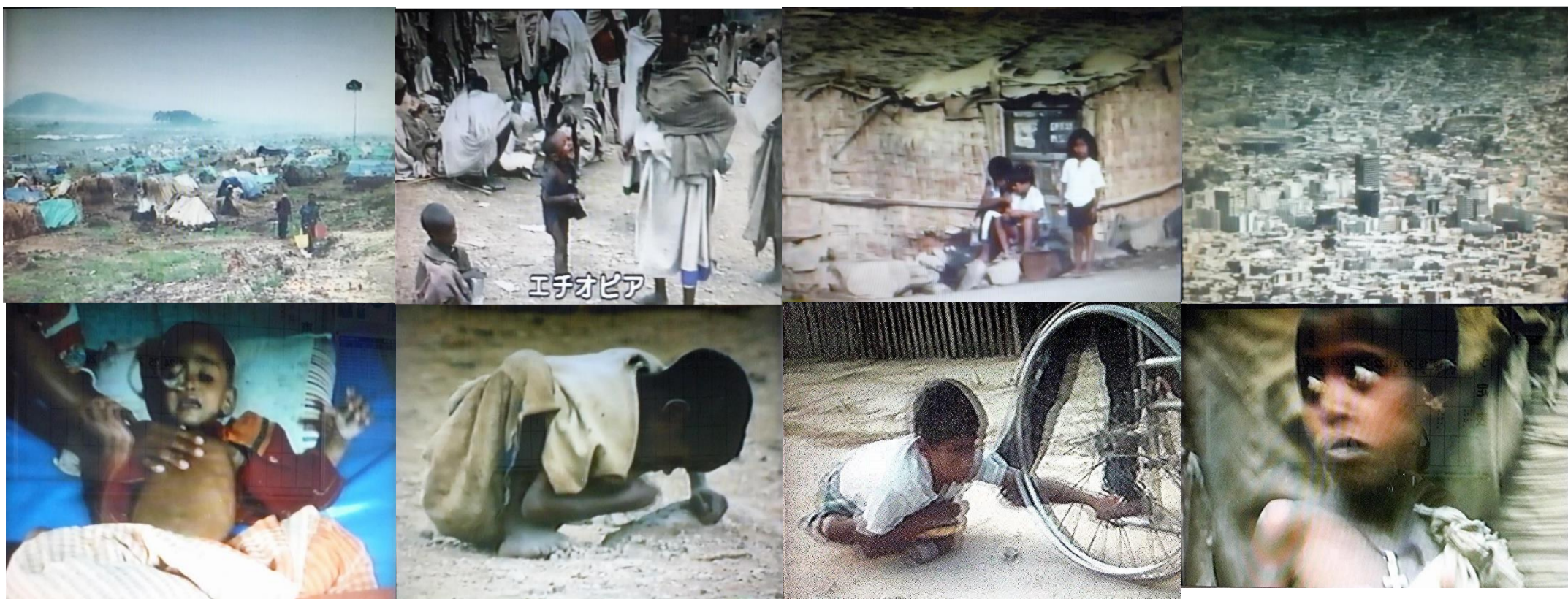
人間が人間として人間らしい生活が出来るように最低限の権利を有することが出来るようにならなければなりません。

まもなく21世紀を迎えます。地球社会において先進国、発展途上国、人種の枠を超え、すべての人々や子供達が一日も早く平和に暮らせることを願わずにはいられません。旭川モーニングロータリークラブでは『飢餓・病気・ストリートチルドレンの為に、未使用、使用済み、ハガキ・切手・テレホンカード切ったの回収をいたしております』

※会場では市民の皆様へ世界の現状の説明。

現在、世界では毎日3万5000人が飢餓のため命を落とし、内2万6,000人が5歳以下の子供達です。彼らは栄養不足で体力が衰え、トイレも汚くまた清潔で安全な飲み水もなく、風邪や下痢といった軽い病気でも死んでしまいます。

また、世界人口56億人の内9億にも人々が非識字者であり、15歳以上の人々の内四人に一人は読み書きが出来ません。子供に農薬を飲ませてしまった母親。我が子を赤ん坊の時に手足を切断して物乞いの道具にする父親。読み書きや計算が出来ないために、安定した職が得られず、収入が少ないために、教育を受けられないといった悪循環が、人々を貧苦に陥れ、さらに貧苦は急激な人口の増加（今後50年で100億人になると言われています）や、資源の枯渇、環境の破壊をもたらす事になります。



この悪環境を断ち切るために、識学教育を普及させ自分たちの手で飢餓から脱する事が出来るように根本的支援が必要とされ急がれています。

ハネル展では、インドやパキスタン・エチオピアなどの子供たちの現状と問題点を示す写真パネル50点や世界の児童画30点・ウガンダやドミニカなどの子供たちが『食べ物』をテーマに描いた絵も展示されていたが、中には爬虫類も描かれていた……。飢餓の現状を照会するビデオ上映も行い来場者に飢える子供達の実態を良く理解して頂けた惟しと大きな反響があり素晴らしい啓蒙キャンペーンであった。

会場では期間中支援活動の一環として、書き損じハガキ・使用済み切手・テレホンカードなどの提供を呼びかけ多くの市民よりご協力を戴き日本基督教会連盟・日本キリスト教海外医療協力会に送付した。



パネル展展示風景

また会場では、このイベントへのアンケート調査も行った。ご意見・感想の一部を紹介しましょう。

※20代未満のご意見ご感想

●どうして何も無い食べ物もない国を作ったのかなぁと思いました。1日に11時間も働かないとダメなのかと思いました。少しでも食べ物を分けて上げたい。少しでも死ぬ人を減らしたいと思いました。

ただ地面に寝て耳が腐って死んでいく人もいるから家を作ってあげたいと思いました。赤ちゃんの手、足を切るのが可哀そうだった。少しでも助けてあげたいです。

●外国の人たちは毎日何も食べていないから、日本に暮らしている私たちはよほど贅沢な生活をしている人だな、アジアとかに行っても無理な話です。そういう人の話を聞いているとなんだか少し気持ちがわかるような気がします。生まれたばかりの赤ちゃんがよく死んでしまうのはとても悲しいな、悲しいだけでなくすごく悲しんだね。家が無ければどうやって過ごして居るのかな。

●私たちの国はとても幸せです。ビデオを見ているとそれが分かってきました。私たちは、食べ物が当たって、勉強もできて、欲しいものを買ったりできます。けど、ほかの困っている国は食べ物もない生きるか、死ぬかで毎日暮らしているのが分かりました。私たちは温かい衣服を着ているけど、向こうの国にはない。なんて幸せなんだろうと思いました。普通に暮らしていたのにこんなに他の国が苦しんでいるなんて。パネル展を見るまで分かりませんでした。パネル展に来て良かったです。

●切手とか、募金とか集めているけど、本当にちゃんと送っているのかなと思ったと、送金するときのお金の方が高いんじゃないかなと思った。

●パネルを見たり、ビデオを見たりしたけれど、どの人もかわいそうな人ばかりでした。力に成れるなら力になりたいです。

●私たちも幼稚園の頃から判っていたけれど、すごく可哀そうだと思いました。私たちの生活から見ると、パンが食べられて幸せだと思います。そんな子供を見てわついはそんな可哀そうな人たちを一日でもいいからもっともっと笑って幸せに暮らせたらと思いました。

●日本はこういう国から煮たら、全然恵まれているのに、もっともっとあ～したい、こ～したいなど考えてみると、日本は情けないと思います。こういった国の事を考え自分たちも頑張っていきたいです。

※20代のご意見ご感想

●どうして何も無い食べ物も無い国をつくったのかなぁと思いました。1日に11時間も働かないとダメなのかと思いました。少しでも食べ物を分けてあげたい、少しでも貧しい人を減らしたいと思いました。家の無い人も居て、ただ地面に寝て耳が腐って死んでいく人も居るから家を作ってあげたいと思いました。赤ちゃんの手、足を切るのが可哀そう、少しでも助けてあげたいです。

●外国の人達は毎日何も食べていないから、日本に暮らして私たちはよほど贅沢な生活をしている人だな。アジアとかに行っても無理な話です。そういう人の話を聞いているとなんだか少し気持ちがわかるような気がします。産まれたばかりの赤ちゃんがよく死んでしまうのはとても悲しいな。



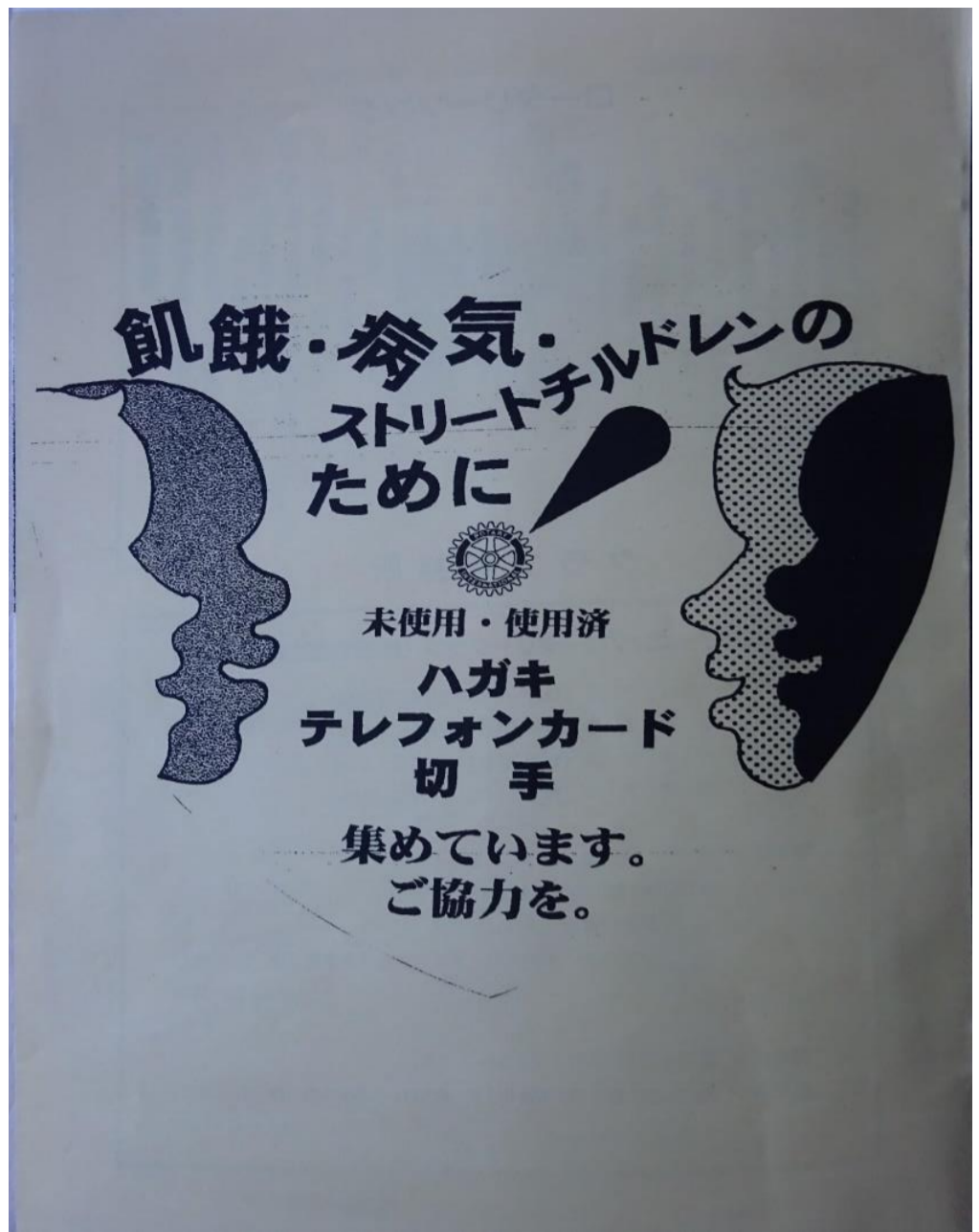
1998～1999年度国際ロータリー第2500地区第3分区



「飢餓・病気・ストリートチルドレン」啓発キャンペーン
1999年1月14日～18日

世界の飢えた人々に
食糧と愛を

Asahikawa Morning Rotary Club



※30代のご意見ご感想

●すべての事がすべてを満たされるのであれば、なぜその試練が子供及び弱きものに与えられるのか、それが神による意図であれば、私たちは無力である前に一歩踏み出すことを考えてみてもよいと思います。

●私たちを含めNGOなど各種団体がこのような活動をしているのですから、日本のみならず世界中の国で、しかも国政の中で援助する体制が出来ていくとよいと思います。

※40～50代のご意見ご感想

●これからはだんだん食料不足になっていくということを感じていました。食料があってもいろいろな問題で食べられなく時が来るということ。その時、今回のパネル展のように飢えて来ると思いました。

●世界中がもう少し豊かになればよいと思います。戦争や争いごとのない世界が望ましいですね。..

●ただ気の毒に思い何かをしたいと思う前にまず、日本人の私たちがいかに資源を無駄にしているかを認識しなくてはならない。そのうえで何ができるか、必ずしも大きな事でなくても良いと思う。小から大へ。

●パネルを見てびっくりしました。私たちも何か手伝える事が出来たら良いと思い協力いたします。

●皆さんの温かい気持ちが直接その子供たちに届けられることを願っています。

※60代以上のご意見ご感想

●朝からこのようなキャンペーンをしていらっしゃることに感動、世の中の人々が自分のことのように考え努力して頂けたら素晴らしいことですね。お互いに協力しましょう。

●私も含めて幅広く理解をしてもらうための強力な活動が必要であり、歯がゆさを感じる。キャンペーンが成功するようお祈りしています。

●そんな子供たちを助ける事が出来たら良いですね。協力いたします。

●素晴らしい企画で飢える子供たちの実態がよくわかりました。このような行事を機会あるごとに実施され、飽食の日本人に考えさせる場を与えることが大切と考えます。子供を救う機関としては、ユニセフやフォスターペアレントなどいろいろありますが、このように視覚に直接訴える企画も良いですね。頑張ってください。

※アンケートでの沢山の方々にご意見ご感想を頂戴した。その一部を掲載させていただきました。



熱心にアンケートに協力を頂きました

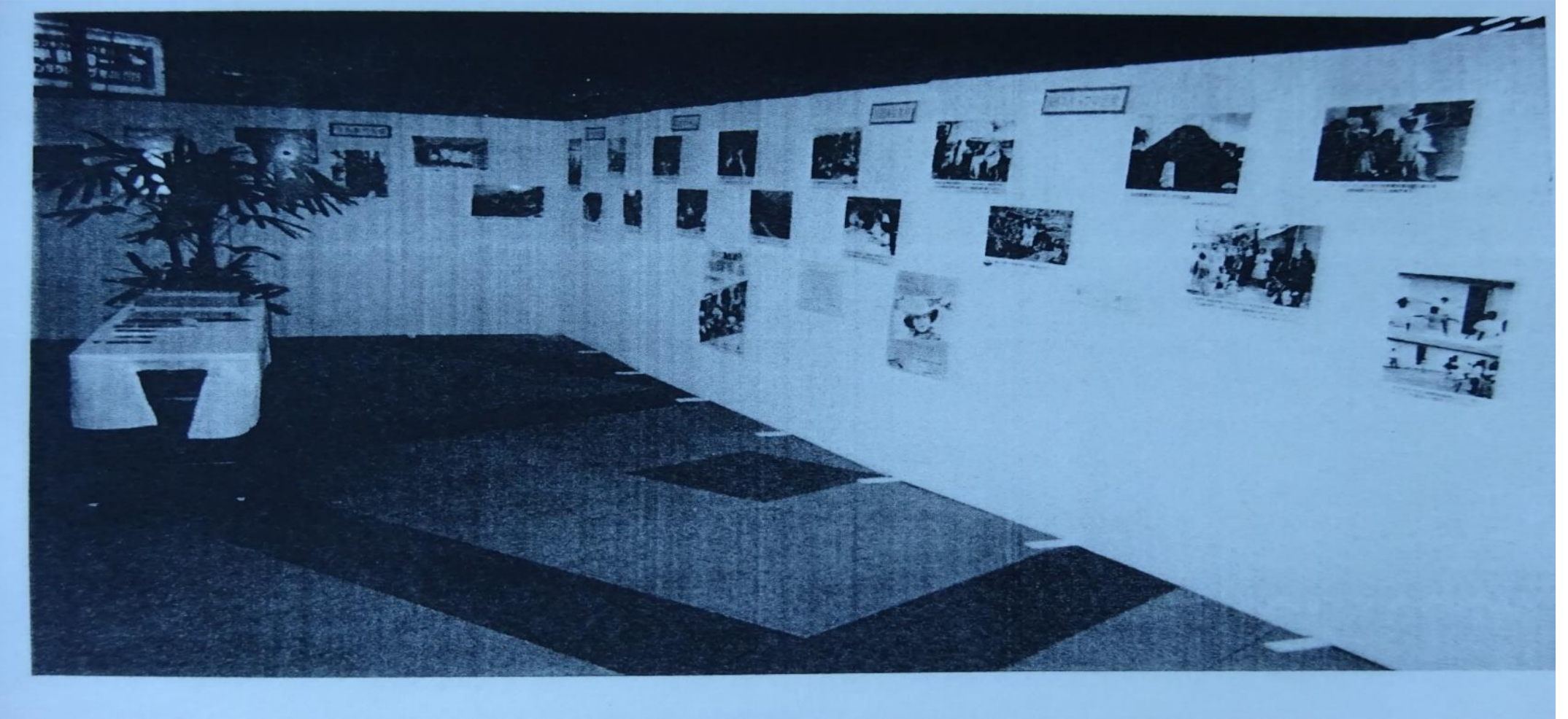


アンケートご記入風景
ご協力ありがとうございます



河崎会員（左）と福居会員（右）

パネル展での会場風景スナップ写真





竹澤、杉村、村越会員



ビデオを見てショックを隠せない子ども



臼杵（左）、高橋会員
中央は太田会員のお嬢さん



アッシュ展示場 会場内部



子どもたちに説明をする竹村会長



説明に力がいります...



宇野会員（右）と田中会員（中）

・病気・ストリートチルドレンの実態を紹介する事ができ、平和と豊かな日本と世界の格差が明らかになり、市民の皆さんには理解と協力を得られたこと、また他のロータリクラブの方々も多数来場を頂き高い評価を頂きました。一般の方々にも大変反響があり、特に中高生が非常に興味を持ってくれるグループもあり書き損字ハガキや切手を持参して頂き感動いたしました。はがき・テレホンカード・切手などは日本ユネスコ協会連盟と日本キリスト海外医療協力会へ寄贈送付し活用して頂きました。

※アンケートに答えてご協力頂いた170名の皆様ありがとうございました。

、大変勉強になり、市民の皆様にもモーニングロータリークラブをアピールできたことと、市民の皆様へ知って理解頂く良い方法であった。

他クラブの人たちから良い企画だと言われたが、とにかく寒かった。写真パネルより子供たちの絵画パネルの方に人が集まり、また、飢餓のビデオにくぎ付け、飢餓とストリートチルドレンの世界の実態を理解いただけたことに意義あるキャンペーンとなった。

※会員間の連携と協力のもと会として、一つのイベントをこなす事の大切さと難しさが交差するとともに、会員間の理解と協力なしには成しえる事が出来なかったこのパネル展で、多くの事を学びました。

モーニングロータリークラブ6年の歴史の中で養われたロータリー奉仕の精神と仲間意識のすばらしさに感動しております。

また一人でも多くの人たちが現状の飢餓を意識し、いま私たちが何をしなければならぬかの問題意識の啓発に少しでも役立つことが出来れば、会員の皆様のご苦勞に報われるのではないのでしょうか。また、第三分区ロータリクラブの皆様のご厚情と、寒い中わざわざご来場いただきましたロータリアンに深く感謝申し上げます。

※パネル展を終えて・・・(反省)

※旭川モーニングロータリークラブとして発足以来の初めてのキャンペーン大盛会。

旭川モーニングロータリークラブ・バンザ〜イ !!!


素敵な仲間たちに キャンパ〜イ !!!

平成11年 1月7日(木) 北海道新聞

かみかわ 24時

暴力に脅かされているス
トリートチ
ルドレンの
救済を呼び
掛けるパネ
ル展が、十
四日から十
八日まで、
アッシュ・ア
トリウムホ
ール(旭川市
一ノ七)で
開かれる。

▽旭川モー
ニングロー
タリークラ
ブ(竹村陽
子会長)が
主催する。
パネル展は、
インド、パ
ンペル展で
は、イン
ド、パ



▽親や
保護者がい
ないため路
上で生活
し、病気や
暴力に脅か
されている
ス
トリートチ
ルドレンの
救済を呼び
掛けるパネ
ル展が、十
四日から十
八日まで、
アッシュ・ア
トリウムホ
ール(旭川市
一ノ七)で
開かれる。

▽子供
たちが貧困
に苦しむ原
因には読み
書きができ
ないことが
ある。この
ため、同展
で識字率向
上のための
資金支援を
しようとし
て市民たち
から書き
損じはがき
や使用済み
レホンカ
ード、切手
の寄付を受け
付ける。

平成11年 1月12日(火) あさひかわ新聞

飢餓・病気の救済のためのパネル展

14、18日、アッシュ・アトリウム

「飢餓・病気のストリートチルドレンのために」と題したパネル展が十四日から十八日まで、一条買物公園の丸井今井旭川店アッシュ・アトリウムで開かれる。

この催しは、貧しさのために世界各国で毎日約三万五千人の人たちが命を落としたり、教育を受けられず文字の読み書きができないといった現状を、写真やビデオ上映などを通して紹介するもの。国や人種の枠を越え、すべての人たちが一日も早く平和に暮らせることを願い、旭川モーニングロータリークラブ(竹村陽子会長)が企画した。

また、会場では支援活動の一環として、書き損じのハガキや使用済みレホンカード、切手などを回収する。同クラブでは多くの人々からの協力を呼びかけている。時間は午前七時から午後一時まで、入場は無料。問い合わせは竹村さん(☎57-5255)まで。

おことわり 「かんたん一品」は休みました。

お陰様で4周年!
PASTA・WINE
あるでん亭
旭川市5条8丁目吉方ビル2F ☎55-6256

※ FMリベ-る生中継取材

1月16日(土) 13:15~13:30

メディアあさひかわ 1999年・2月号

「飢餓・病気のストリートチルドレンのために!」
1月14~18日 パネル展

広報

「飢餓・病気のストリートチルドレンのために!」
パネル展

期間 平成11年1月14日~18日

パネル展

竹村 陽子



「飢餓・病気のストリートチルドレンのために!」と題したパネル展が一月十四日から十八日まで、市内一ノ七のアッシュ・アトリウムで開かれた。この展示会を企画したのは、旭川モーニングロータリークラブ会長の竹村陽子さん(52)。

竹村さんは、昨年七月に会長に就任。その際に発表した活動計画書に盛り込んだ「飢餓の子供たちを救いたい」の思いが展示会とい

「飢餓・病気のストリートチルドレンのために!」と題したパネル展が一月十四日から十八日まで、アッシュ・アトリウム(旭川一ノ七)で開かれている。旭川モーニングロータリークラブ(竹村陽子会長)の主催。

「すべての人々、子供たちが一日も早く平和に暮らせることを願って」の展示会で、会場には未使用・使用済みはがき、切手、レホンカードの回収ボックスを置き、協力を呼びかける。パネルは、現状・経過・結果・今後の課題と対応(支援状況)別に分けて五十枚展示され、ビデオも上映する。同クラブでは展示会の感想文も募集しており、集まった感想文は文集にして小・中学校、各奉仕団体、各種団体に寄贈する予定。詳しくは竹村会長(☎01-661-5715・255)まで。

うかたちになったのだ。竹村さんが子供たちの飢餓問題に関心を持ったのは、「大勢の子供たちが地面に伏して寝ている。一枚の 슬라이ドがきっかけだった。実はこの写真、子供たちは寝ているのではなく、死骸になっていたのだ。」

「飢餓がそれほどひどい状況にあるとは思っていません。でも、かたがたのシヨックを受けた」竹村さんは、何か自分ができることを考え、まず最初にロータリーに呼びかけ使用済みの切手・レホンカード、書き損じのはがきの回収を始めた。

そして展示会の前、自ら経営する書店や珠算などの教室「ひかり総合教育」の子供たちにも、毎日三万五千人もの人たちが飢えのために死んでいく現状を話して聞かせたという。

「他人には無関心といわれる現代っ子が、私の話を聞いてほろほろと涙を流したんです。いまの時代は、家族や人間関係の大切さが分からなくなってきた。すよね。この展示会を通して、子供たちには相手思いやったり支えあったりする気持ちを持ってもらえればと思っています。」

展示された五十枚のパネルの中には、ウガンダやドミニカ等の子供たちが「食べ物」をテーマに描いた絵も展示されたが、中には、は虫類も描かれていた……。

メディアあさひかわ 1999年・2月号